特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸（ＣＳ神戸） 2010年４月25日発行 通巻59号
〒658-0051 神戸市東灘区住吉本町 2-13-1 森田ビル３F TEL 078-841-0310 FAX 078-841-0312

市民フロンティア

URL http://www.cskobe.com/ E-MAIL info@cskobe.com 発行人：中村順子 編集人：梅木利恵

2009年度 第４回理事会を開催

決算と今後の３ヶ年についての濃密な議論

１月29日(金)午後３時～午後５時10分、ＣＳ神戸の事務所４階会議室にて、第４回理事会が開催されました。同会は足立、石川、坂本、末村、中村順子の各理事と、委任状による中村厚子理事の出席を得て、計６名の出席にて成立し、以下の議案が可決・承認されました。また、松下監事にも陪席いただきました。

【決議事項】

１．『2009年度決算予測』の件

村上会計統括より決算予測書を元に、今年度よりスタートした介護サービス情報公表調査事業が、兵庫県の事由による遅れから、実質的には次年度に１ヶ月分繰り下がるため収入減となること、小ホールは日給スタッフの代わりに常勤スタッフが代勤したことで人件費のやり繰りをしていることなどの報告があり、承認されました。

２．『ＳＲ ｉｎ ＣＳ ３ヶ年計画の検討』の件

中村理事長より14年任務してきたので、今後次世代への移行について2010年度からの３ヶ年計画を立案すること、ＳＲ ｉｎ ＣＳの計画に基づいて、その中で理事会・事務局・プロジェクトのあり方を議論する件が提案され、企画調整会議で話し合っていくことが承認されました。

３．『春のスタッフ研修会』の件

坂本副理事長より、３月28日(日)10～15時、常勤のリーダースタッフが参加して、2010年度の方針を立案するための研修会を、新しい研修方法も取り入れるなどして開催することが提案され、承認されました。

また、2010年に15周年を迎えるにあたり、「地域にやさしいCS神戸」をめざし、ＣＳ神戸のＳＲとして、サテライト・カフェを展開したい。社会参加が難しい人のステップアップ就業体験の場として、地域情報の受発信基地として等、複合的な機能を持たせ、ＣＳ神戸の地域貢献が市民から目に見えやすくして、雇用・情報・地元物産などが行きかう居場所づくりに努力したいとの提案がありました。

４．『東灘ＮＰＯ交流会』の件

中村理事長より、東灘区内約70のＮＰＯ法人に対して、まずは交流を図りお互いに知り合うことから始め、神戸市や地縁団体と向き合えるような窓口となるネットワークを形成するため、呼掛け人の賛同を得て、４月には交流会を開催したいとの提案があり、承認されました。

５．『協働契約書研究会』の件

中村理事長より、現在、行政等との契約で契約書と協働協定書の二本立てのものを一本化し、対等な関係を協働契約書として明記していくため、今年度は研究会を発足して事例研究を開始しているが、2010年度から正式な研究会を開催したい旨が提案され、異議申し立てなく承認されました。

６．『危機管理』の件

中村理事長より、事業が手広くなると多方面に亘り、危機管理を徹底する必要がある。ＣＳ神戸の名誉が失墜されるか否かが、判断の根幹であるとの発言が共有されました。

【報告・検討事項】

１．感謝のつどい開催の件（８頁参照）

第17回 春のスタッフ研修会報告

年度末押し迫る３月28日(日)10～16時、ＣＳ神戸の事務所にて、『ＣＳ神戸の向こう３ヶ年計画を見据えた2010年度の活動方針を立案すること、人事の決定と概算予算を策定する』ことを目的に、役員４名(中村理事長、坂本副理事長、松下監事、當間監事)とスタッフ９名(狩野、国枝、小林、辻井、朴、飛田、兵頭、村上、梅木)が参加してバランススコアカード方式による研修会を開催しました。

なお、同研修会で立案した内容が、５月に開催される理事会・総会の決議を受けた後、速やかに実行されることとなります。 （事務局：梅木利恵）

短期間で確かな成果！

―　ふるさとCB創出支援事業　―

2010年１月５日から３月31日までの３ヶ月の短期間にも関わらず、緊急雇用対策の一貫で４名のインターン生を受入れ、すばらしい活動ができました。

３月７日、三宮勤労会館にて「ふるさとにチャンスあり！」というシンポジウムで甲南大学経営学部西村順二教授に「ビジネスにおける社会性と事業性」をテーマにお話しいただき、インストラクターからはＣＢの事例紹介をしました。

３月13日には、「丹波環境モニターツアー」を開催し、丹波市氷上町賀茂にて抜倒・製材・加工の工程を経験してもらい、卒業するインターン生の指導による箸作りで森の大切さを学んでいただきました。

一方、引き続き継続するインターン生の一人は２度のツアーを独自で企画し、３月６日に篠山市大山新にある多目的交流施設で黒豆による味噌作りの体験を実施。３月２０日～21日には農家民宿「花ひろ」周辺でヨモギ・セリを採取したり、餅つきをしたり、芋植え農業体験と、里山で竹を抜倒してプランターづくりをする自然宿泊体験ツアーを開催しました。インターン生自身がチラシ作りから集客、ツアーコンダクターまで実行するという企画で、ＣＢ事業の遂行に関する実践の学びをしていただきました。

好みの長さに製作した青竹プランター

もう一人の卒業したインターン生は、高齢者、障がい者の生活環境の改善支援、介護保険を活用した住宅改修大工、造作大工の事業を起業し、短期間の研修中に事業を立ち上げ自立していきました。又、NPO法人設立に伴う各種運用規程の作成支援も手がけ、定年後の新しい生きがいを見つけて、ＣＢ事業のスタートをきりました。

今年度も３名のインターン生が活動することになりますが、インターン生自身による企画運営の効果は、大変意義深い成果がありましたので、今後も継続していきたいと思います。

（ふるさとリーダー：国枝哲男）

ソーシャルアクション支援プログラム　第１期終了

―　16名がマッチング、2団体がグループ立上げ　―

広報に欠かせないチラシ(案)製作中

（財）神戸いきいき勤労財団とＣＳ神戸が協働で実施した「第１期ソーシャルアクション支援プログラム」。地域のしごとや活動に参画してもらうことを目的とした８ヶ月間の長期研修が２月24日に終了しました。

ＮＰＯやＣＢの情報を知る１学期、実際に地域での様々な活動体験を行う２学期、助成金申請などの実務スキルを学ぶ３学期と、内容は盛りだくさん。有志企画による交流会が何度も開催されるなど、和気あいあいとした雰囲気ですすみ、回を追うごとに受講生同士のネットワークも広がっていきました。

「なかなかの出来栄えでしょ♪」

プログラムのクライマックスは２月17日に行われたマッチングフェアで、当日はワラビー相談員が出張し、個別相談をしながら地域における求人やボランティアを紹介しました。提供した情報は約80件。受講生は自身の条件や活動場所をチェックしながら、高齢者、障がい者、子ども、外国人、環境などの団体情報に真剣に見入り、20名近くの方が自分の希望する団体で活動を開始しました。また、当プログラムでは、共通の関心を持った受講生同士のグループワークを多く取り入れており、誰もが気軽に立ち寄れる居場所づくりや里山保全に取り組むグループ２団体が立ち上がりました。

今年度も６月23日（水）より第２期のプログラムが始まります。第１期修了生との交流や地域活動の先進事例をめぐるオプションツアーなど、内容は更にパワーアップ。皆さまのご参加をお待ちしています！

第1期生集合！

（支援事業セクション：飛田敦子）

後期2団体に助成金交付決定！

―― 2009年度 市民活動サポート基金 ――

去る３月16日（火）、2009年度第２回市民活動サポート基金の選考委員会が開催され、２団体に計46万円の助成金交付が決定されました。以下、対象団体をご紹介します。

ＮＰＯ法人すみよいくらしサポート

理事長：山川英記さん
事業名：高齢者の福祉と子どもの健全育成促進事業
助成額：360,000円

1999年に大工仕事が好きな有志５人立ち上げた「こもれび工房」を基盤とし、さらに活動を発展させるために、2010年３月に「ＮＰＯ法人すみよいくらしサポート」を設立しました。構成員はプロの大工を中心としたボランティア精神旺盛な10名で、主な事業は、住宅改修と親子木工教室。住宅改修では手すりの付け替え、床の段差修正、収納棚の取り付けなどの大工仕事を通じて、高齢者の生活環境改善のサポートをします。また親子木工教室では、神戸市主催の環境イベントや児童館でのプログラムを通じて、木の肌触りを感じてもらい、健全育成の一助を担いたいと思っています。今回の助成金は、発電機やスライド鋸など、工具の購入に充当する予定です。

選考委員会風景

ＮＰＯ法人ＦＦＰ

理事長：深田隆さん
事業名：オーダーメイド自助具普及促進事業
助成額：100,000円

2003年に、脳性マヒ当事者や支援者が中心となって立ち上げ、その後、法人格を取得しました。福祉制度の充実などにより、一般的な福祉用具やユニバーサル製品はふえていますが、当事者それぞれの状態によって、一般の福祉用具だけでは十分な対応ができません。そこでＦＦＰでは、個々人の障がいの状況に合わせたオーダーメイド自助具や新たな生活用品などの製作・普及を行うことで、障がい当事者の生きがいづくりを行い、より豊かな生活の増進に寄与することを目的としています。今回の助成金は、自助具の普及啓発と、サンプル自助具の製作に充てたいと思います。

（支援活動担当：飛田敦子）

マッチングシステム総括フォーラムを終えて

―― マッチングシステム事業 ――

去る2010年２月18日（木）全労済兵庫県本部において、「企業とNPOの協働によるCSRフォーラム」が開催されました。参加者は例年より企業の方が多く計69名にも上りました。

第１部では、①㈱神戸介護ケアウイング代表取締役 足立勝氏「入れ歯の名前入れから始まった社会貢献」、②近畿タクシー㈱代表取締役社長 森崎清氏「まちづくりとタクシー」、③日本山村硝子㈱CSR 推進室長 植田政孝氏「我が社のCSR推進活動」という３つのテーマで企業とNPOの協働によるCSRの先進事例の発表をしていただきました。

第２部はNPO法人宝塚NPOセンター理事　金森康氏より、今年度から新しくスタートしたＩＴによるマッチングシステムの取り組みについての説明をいただいきました。具体的には、ブログ「関西ええこと.Mot」内にマッチングシステム運営委員会のブログを開設し、その中で、資源提供・資源希望の情報について発信し、WEB上でも、資源のマッチングを進めるという内容です。

初めて来られた企業も多数参加

第３部では、マッチングシステム運営委員会　當間克雄委員長のコーディネートによる報告者と参加者が６つのグループに分かれてグループワークを行ないました。①高齢者施設とコミュニティの連携②地域の商店街の活性化③農村地域の発展をテーマに、各グループより資源持ち寄り解決する方向性を提示して発表を行い、閉会となりました。

当日、参加者から「今後もこのような企業とＮＰＯの集まる場を設けて下さるのですか？」という声があり、協働するための場が求められている事を強く感じました。

マッチングシステム運営委員会事務局としての役割は、2009 年度で一旦終了となりますが、事務局に携わるなかで、またＣＳ神戸が独自のネットワークで行ってきた地域資源のマッチング活動は、2010年度以降も地域社会のニーズに対応するため、何らかの形で継続していきたいと思います。

※フォーラム当日の詳細は、下記をご参照下さい。
http://www.hnpo.comsapo.net/weblog/myblog/609/22858#22858

（担当：朴　京守）

“CB起業団体調査を終えて…”

―― CS神戸の実調査員8名からの感想 ――

兵庫県は緊急雇用政策の一環として、昨年末から今年３月にかけて県下のコミュニティビジネス（ＣＢ）起業団体追跡調査を行った。この調査には播磨西、播磨東、神戸西、神戸東、阪神北、阪神南の６「生きがいしごとサポートセンター」が参加。総勢 14 人を調査員として雇用し県下の 633 団体にアンケートを発送して 454 団体から回答を得ました。（神戸東を運営するＣＳ神戸は、８人雇用・423 団体調査・279 団体回収。）調査対象は過去にサポートセンターが起業支援をした団体やその他のＮＰＯ法人で調査方法は事業内容、実績と成果、雇用人数、ボランティア人数、課題等を書いた調査票を前もって送付して記入してもらい、その後調査員による訪問や電話等で確認をした。全体の回答率は 71.5%と非常に高く、課題等も浮き彫りになり大きな成果があった。

◎ 調査を終えて。。。。

高田　始めはＮＰＯ団体は何をしているのか分からなかったが学習を受けた後調査に携わってみると定年後に活動を始められた方が多く一生現役という印象をうけ元気を貰った。どの団体も「活動資金」「後継者の育成」「活動場所」で困っていた。これらの解決の一策には、民間企業との交流を盛んにして企業からは資金とか居場所を提供してもらい、ＮＰＯ団体からは企業にない人と人とのコミュニケーション力とか繋がる知恵や方法や、定年退職後の仕事場とかを提供していけばいい循環型社会が出来るのではないかと思いました。

宮下　私も関心はあったが実際の活動は知らなかった。現場を訪れヒアリングをすることでＣＢについて知る絶好の機会となりいい勉強になった。利益中心でやってきた日本の企業社会の中で利益追求ばかりでない流れが出てきているということは凄いことだと思いました。大切なことは「継続する」ことだと思います。活動を停止していたり、停止しようとしている団体があり残念でしたが、これを乗り越えて行っている団体はミッションが明確でモチベーションが共有されており人の繋がりを大事にしていました。資金難、人材不足、事務手続きの煩雑さ、連帯不足による行政との一方的な関係、今後出てくるかもしれない企業との競争、いろいろと問題は山積しています。今のままでＮＰＯが発展していくことは難しい。この「凄い」流れを「持続」していくには今までとちがうスキームをつくる必要があると思いました。行政は常設の部署をもうけて実体調査を更に綿密に続けて下請けでなく対等の立場で支援につなげて欲しいと思いました。

齊藤　今回、調査の過程で、さまざまな調査先の対応と実体が映し出され、一喜一憂しながらも、日々工夫をこらし、各団体の頑張りをこのアンケートにのせて行政に届けましょう！！という熱い思いを調査員全員が共有した結果、回収率 70%超という夢のような？数字になったのだと確信しています。調査を終えて成長スキルを持った団体は実に前向きで展望を実現すべく前進する方向が定まっているのに、スキルのない

団体は展望を持ちながらも足踏み状態の中、熱意だけで持続させている姿を明暗のように感じました。今後、後者のような団体はノウハウやスキルを持った中間支援団体と連携する仕組みをつくり、その手をかりてＣＢ発展のために努力していってほしいと思いました。

岡　ＮＰＯの活動には未経験でした。調査中いろんな場面、場面でボランティア精神というものを強く感じました。しかし、事務手続きの煩雑さに時間をとられ、人を雇う資金もなく、人を雇うと利用者に負担がかかってそれも出来ず、十分な世話が出来ないと嘆く福祉関係の人たちや、表向きは市民に呼びかけ企画などをしていながら、全然連絡のつかない実体不明の団体もあり今後行政のさらなる調査が必要だと感じました。

福永　この調査をして感じたことは行政の責任の大きさです。特に福祉活動分野では、行政が担うべき分野であるが、質のよい行き届いたサービスのためには、地域の状況に精通した人々の活動や情報が欠かせない。そこにＮＰＯが事業展開していく意味と必然性がある。訪問した障害者の小規模作業所の一つでは、職員が忙しく指導しておられ、ヒアリングに応対してくださる余裕はなかった。そこで教えられ苦労して探し当てた事務所でも事務員さんが慌ただしく活動しておられ、ヒアリングできる状態ではなかった。

回収したアンケートをＰＣに入力していると、この種の施設の職員は、非常勤職員も多く、収入はよくても 100～200 万円／年であることが分かった。この収入で家庭を持ち、一家を支えていくことは非常に難しいと思う。これらの施設は、働いている人たちの使命感

と善意に支えられている。行政ではどうしても行き届かない細やかなサービスをカバーしている人々が、十分生活していけるだけの賃金と待遇を保障していけるよう、行政が果たさなければいけない責任は多きいと思う。

毛利　過去１年間ＮＰＯというものを座学や研修である程度知っているつもりでしたが、実際に訪問調査等をしてみて学ぶところが沢山ありました。どこも資金難とか手続きの煩雑さで苦労し、あるところではＰＣの内部を開けて全部みせて下さり、こんなに事務量が多いのよといわれた時には仰天しました。忙しいからと事務所内にも入れてくらなかった方が話すうちに中へもいれてくださるようになりこの仕事をして良かったと思いました。この４月からは私もＮＰＯ団体の一員として「居場所」作りをはじめます。このためにもこのたびの調査がいい体験になりました。

大西　これから発展すると活動の内容を知ることが出来ると期待して参加しました。
福祉活動分野では苦労の多い仕事に熱心に取り組んでおられる姿に頭の下がる思いをしました。他方、あるスポーツ団体では単なる受付業務だけでまるで行政の下請けで何がＮＰＯ活動がさっぱりわからないのもありました。また場所すら分からず、近所で聞いても知らないという団体も結構ありました。総じてＮＰＯで活動している団体は横の繋がりが薄いようで、相談にのったり、助成したり、育成していく機関がなく、将来にむけてはＮＰＯという体質の整備が必要ではないかと思いました。

井上　以前からＮＰＯの活動に興味があり、作業所の 13 団体をヒアリングしました。社会的弱者の方を対象にしている団体でしたがそのＮＰＯ団体自体が弱い団体になってきているという印象です。資金面でも行政に依存しなければならず、地域の中で受け入れられているかというとそうでもなく、マイナーの中のマイナーのことをしているので横の連携も少なく、資金調達、対行政問題でも誰に相談したらいいのかも分からず、孤立している感じも受けました。これを解決するには、やはりＮＰＯの活動を広く世間に認知して貰って支持を得、ＮＰＯ，企業、行政の三者が対等の立場に立って、発言力を増していくしかないのではないかと思いました。

（担当：副理事長　坂本登）

自信を持って、一歩ずつ！

―　NPOひょうごしごと応援ナビ・ジョブナビの取組み　―

昨年 10 月に連合の助成を受けてスタートしたNPO ひょうごしごと応援ナビ。その一環として、就職後の職場定着まで総括的にフォローをする「ジョブナビ」を導入しました。ワラビーを中心に活動しているジョブナビ担当は、１日２～３名の相談者と会い、面談や職場への同行、受け入れ先へのフォローなどを行っています。以下、約半年間のジョブナビ担当の取り組みや感想をご報告します。

ジョブナビ担当
水船　春美さん

「就職がなかなか決まらない、就職しても短期間で解雇されたり辞職を繰り返すなど、仕事探しに苦労を重ねている人たちの多くは、失敗経験から自己イメージの混乱や自信の欠如を招き、自己本来の能力を発揮できていない、また就職に必要な能力、技術を培っていない人が多いように思われます。仕事への意欲喚起、社会参加へのトレーニングとしてボランティア経験などや時には病院受診等を進めることで、技能を習得しながら自己の適性、得意分野などを認識してもらい自尊感情を養ってもらえるよう心掛けています。

成果としては、就職決定者が２名、有償 無償ボランティア３名の他に、作業所に通所を決められた方もおられます。何よりも、就職、社会参加等に向けての動機づけや面接への対応、コミュニケーション方法等を養うための面談を重ねていくことにより、自信とやる気が徐々に感じられる人が現れてきている手ごたえを感じています。

課題としては、就職に向けて何が問題なのか、就職のために何を解決しなければならないのかを認識してもらうプロセスを通じ、個人の特性を自覚してもらうことや、さらなる社会や受入企業の理解促進などが挙げられます。」

雇用情勢の悪化も伴い、なかなか成果には結びつきにくい事業ではありますが、面談を終えた相談者の方たちは明るい顔で帰って行かれます。こういったプロセスを大切にしながら、経験を積むことで自信が持て、一歩ずつでも自分らしく仕事ができるようなサポートにつながっていると言えます。助成金を活用しての制度のため 5 月で終了となりますが、今後は生きサポ事業で引き続きの支援を行っていきます。

（支援活動担当：狩野仁未）

報告書完成

「トータルケアと自立度マッピング」事業

―― WAMNET からの助成金事業 ――

２月 20 日、この事業のまとめとして、二つの課題でフォーラムを開催しました。①地域の施設をどのように選ぶかでは、職員の対応等のソフト面と構造、利便性などのハード面、②どんな支援がボランティアとして協力できるかでは、施設側とボランティア側とが深く知ることが肝要であり、地域の団体や NPO がそれを仲介する役目をもつとの意見がありました。施設側からみると、勝手にニーズを創る、“ムリヤリボラ” も見受けられること。施設内の環境・利用者状況等などをもっと知る機会を作り、何を協力できるかを自ら探してほしい。施設側も地域にもっと溶け込むよう努めたいとのことでした。

フォーラム会場での趣旨説明中

地域の高齢者の課題解決に最も近い距離に在る地域包括支援センターの現状についてのアンケート結果の説明があり、その活動内容・利用の仕方等が十分に知られていないことから地域連携をさらに行っていくことの方策の検討が必須であるとの報告がありました。トータルなケアを地域に浸透していくには、途切れの無い様々なケアを重層的なネットワークを通じて提供し、利用していただく事がますます大切となっています。それが機能的に絶え間なく動くには、ケアの「途切れ」を見つけたとき、自らそれを繕っていくことが関連する人たちに与えられた使命であるとのまとめがありました。また、地域連携のマッピング作りを行い、それを実践していくことも当面の課題であり、小さなことでもセンターと連携できることを見つけ、広げていくことが必要であると痛感しました。また、せっかく出来たセンターを住民が自ら利用しようとする協力も必要です。これからは精神面でのケアを要する高齢者が急増し、大きな課題になろうとのこと、これもトータルケアの大事な一部です。

最後に、このフォーラムには多くの参加者があり、地域の方々が如何に高齢者と介護保険サービスとを真剣に考え、高い関心度があるかを知り、この種のフォーラムを定期的に開催し、高齢者/家族、サービス提供者ならびに第三者（一般市民、行政等）が一堂に会し、話し合いの場を作り、課題解決の方向性を見出すことに努めることが大事であると思います。

ファーラムの題名「学んで、歩いて調べたわが街の介護施設、団塊の世代が地域の介護施設を訪問した体験から。

（担当：小林清隆）

この1年を振り返って

―― 介護サービス情報公表調査事業 ――

兵庫県から当事業を正式に受託したのは 2009 年 4 月でした。その後 1 年が瞬く間に過ぎ去り、この 4 月下旬には 600 件中のほとんどの調査が終了します。昨年の 10 月から 11 月末までの調査件数は 162 件で通常の月の 2 倍で、新参者の私どもはどうなるかと必死の思いでした。訪問調査のためには、調査員とサービス事業者とのマッチングが一番大変な作業で全く勝手が分りませんでしたが、数少ない調査経験者の方々の惜しみない協力によりここまで来ました。信頼できる事務局スタッフと調査員の確保がいかに大切か、改めて感じた次第です。

多くの新規の介護保険サービス事業者が生まれ、一方では廃業していく業界ですが、高齢者にとっては無くてはならない分野であり、そのサービスの質を担保することがこの調査の使命です。

３月31 日に開催したCS 神戸調査員対象の研修会は第 8 回目となり、常連の顔ぶれがほぼ決まりつつあるのは本当に嬉しいことです。また、高齢者の「自立支援」と「尊厳」を守っていくには、この調査は必須であるとの理解と思いを調査員同士で共有することが出来るようになったことがこの 1 年の最大の成果です。あと残り少ない訪問調査を行い、1 年間の決算をして、来期に向けての予算づくりと、マニュアルの更新に励むつもりです。数ヶ月のブランクができますが、調査員の方々には再度のご協力をお願いし、CS 神戸のスタッフには、今後とも変わらない「心の支え」を期待しております。

（担当：小林清隆）

「神戸の非営利組織による介護保険制度外サービス実態調査」

―― WAMNETからの助成金事業2 ――

神戸では、市民同士が支えあい助け合う活動が従来から盛んであり、特に高齢者への生活支援サービスを提供するNPO 等非営利組織がその中心になってきた歴史があります。

2000 年に介護保険が導入され役割が縮小しそうな予感もありましたが、依然根強い要望があり、また担い手である市民も元気なうちに誰かのお役に立ちたいといったボランタリーな気質が、この活動を継承してきています。

昨年の夏から市内 10 団体のサービス実態を調査し、この度報告書が完成しました。ひょうごん福祉ネットの呼びかけで、CS 神戸の神戸東部ＮＰＯサービスセンター、コープこうべも委員に加わり「WAM」から助成を受け調査したものです。改めてこの助け合い活動の重要性が検証できたのではないかと思います。報告書は、CS 神戸事務所で閲覧できますのでどうぞお越しください。

（担当：理事長 中村順子）

フォトギャラリー

2/11　第2期NPO塾

コミュニティフレンド(障がいのある人のまちなかのお友だち)研究会

1/23　“1．17を忘れない「うおざきフェスタ」”

新人スタッフのご紹介

（ふるさとCB創出支援事業　担当　1名）

土井　孝浩（どい たかひろ）

36 歳、独身です。以前は岡山にて一人で農業をしていました。

以前の就農の経験を活かして、これから丹波地域で就農しようとされる方への助言や支援、丹波と関わる起業を予定される方の窓口役としても頑張れればなと思っています。

日々の出会いの中で、すべてが人の縁に支えられていると感じます。自分自身が助けられたご縁を忘れず、いつかは別の形で、困っている他の人も助けられる人間へとなれるように努めて参ります。

NPO や CB の勉強をして起業のお手伝いができるように、CS 神戸の皆様を初め、多くの人の支えの下、出身地である兵庫で新たなスタートを切りたいと思っています。

（生きがいしごとサポートセンター神戸東　求人開拓担当　2名）

山本　成就（やまもと あきなり）

今いろいろな世代の方が将来に対する不安を持っています。求職活動をしながら不安なまま自分自身にマイナスの結論を出してしまっている方もたくさんいます。まずはワラビーに顔を出してください。肩の力をぬいて何か話してください。自分の進む方向性ややりたいことを、口に出して話すことで自分の中ではっきりするものができれば不安は和らぎます。次に進む第一歩になります。そんな始めの一歩を踏み出すお手伝いをしていきたいと考えています。皆さんと一緒に考え、私も一緒に進んでいきたいという思いで取り組んでいくつもりです。よろしくお願いします。

塩路　晃二郎（しおじ こうじろう）

4 月より新メンバーとして仲間入りしました。地域に密着した求人開拓・就職相談を担当しております。　皆様もご存知のように産業構造の変化やボーダーレス経済が急速に進む昨今、就職活動は超氷河期と云われるほど厳しい状況です。でも再就職活動は人生の新たな出発点であり、求職者のピンチをチャンスに変えられるお手伝いが出来ればと考えています。其々のライフスタイルにあった多様な働き方を探し求めながら。成せばなる、成さねばならぬ、成る業をならぬと捨てるひとのはかなさよ（米沢藩・上杉鷹山より）の気持ちを忘れず頑張ります。是非お立ち寄り下さい。

大好評 第2期生 募集!!

【有料講座】

ソーシャルアクション支援プログラム

地域課題を解決する様々なしごとや活動について、座学と実践を通じて総括的に学んでいただくためのコースです。昨年度初めて実施し、多くの修了生が様々な地域活動(有償・無償)に参画されました。誰もが立ち寄れる居場所づくりや里山保全に取組む２団体も立ち上がり、活動を始めています。自分たちのためにも、地域のためにもなるしごと、貴方も始めてみませんか？

＜1学期／座学コース＞
日　程 ： 6月23、30日、7月7、14、21、28日
※費用6，000円、定員60名

＜2学期／体験コース＞
日　程 ： 9月15～12月8日の10日間

＜3学期／実務コース＞
日　程 ： 1月19、26日、2月2、9、16日、3月2日
※費用2・3学期通しで16，000円、定員30名

詳細は、担当:飛田(ひだ)まで、電話078－841－0310

【助成事業説明会】

立上げ資金を獲得しよう！

～　コミュニティ・ビジネス離陸応援事業　～

生きがいしごとサポートセンター神戸東（ワラビー）の専門相談員の村上義弘さんが、助成金（経費の 1/2・補助額 100 万円以内）獲得となめのコツを指南いたします！

日　程 ： 5月22日(土) 14:00～15:30
会　場 ： 生きがいしごとサポートセンター神戸東(ワラビー)
受講料 ： 無料

※詳しくは、ワラビーまで、電話078－841－0387

“近(こん)ちゃん”基金創設のご案内

ＣＳ神戸の最古参ボランティア(活動14年)として活躍された、故 近藤敏也さんのお母様から、このたびご寄付(10 万円)を頂戴いたしました。このお気持ちをぜひとも意義あるかたちに変えたいと検討し、近藤さんのように障がいがあっても、社会貢献・奉仕の志を持って、社会参加をめざす方々に活動費等の補助をさせていただくこととしました。名称は、近藤敏也さんの愛称をいただいて、“近ちゃん基金”とさせていただきます。当基金は、ＣＳ神戸理事会の管理とし、然るべき対象者のために活用させていただく所存で、改めてご報告を申し上げます。

“ＣＳ神戸感謝の集い”のご報告

震災から15年目の節目にあたり、2010 年 10 月 19 日、1年以上勤務の常勤リーダースタッフ 7 名が、草創期を支えて下さった方々も含む新旧理事 14 名（中村理事長、坂本副理事長、足立理事、金芳理事、末村理事、中村厚子理事、當間監事、松下監事、星野トータルアドバイザー、今田元副理事長、長谷川元副理事長、荒巻元理事、村戸元理事、立田元監事）をお迎えして、今一度ミッションを共有し、またこれからのＣＳ神戸の役割や期待についてご示唆をいただき交流を深める場を持ちました。

地元住吉・オーガニック・カフェTOKIにて

会費・寄付・寄贈をいただき、ありがとうございました

（期間 10 年 1/25～10 年 4/26、いずれも順不同・敬称略）
※トータルケアシステムは別枠で取扱っています。

【会費】
明石　功、泉　勇策、井上隆文、井上　怜、梅木利恵、大西洋助、岡　郷子、狩野仁未、小竹吉明、齊藤須摩子、寺内智子、中尾貢三子、中村順子、西村尚士、朴　京守、橋埜　裕、飛田敦子、兵頭修也、平野久美、広井かほる、藤井光男、福永敦雄、毛利真弓、NPO法人エコ友、NPO法人ジンジャークラブ、NPO法人市民後見ひょうご、NPO法人すみよいくらしサポート

【寄付･寄贈】
梅木利恵、国枝哲男、近藤敏也、中村順子、飛田敦子、村上　義弘、花王株式会社、株式会社ジェーシービー、生活協同組合コープこうべ

2010 年度の会員継続および新規会員を募集いたします！

市民活動を共に支えて下さる賛助会員（個人・団体）の方々を募集しております。
機関誌の定期配送や関係図書の割引などの特典、会員交流会をご用意しています。

【会　費】**個人会員**　3，000円／年、 **団体会員**　10，000円／年
【振込先】**名義**　NPO法人コミュニティ･サポートセンター神戸　**郵便振替**　00950-2-144205

編集後記

春本番になっても寒い日が続きました。でも、庭の草花や六甲を散策すると季節の移ろいを実感することができます。それだけではありません。春の味覚も蕗の薹に始まり、葉わさび、筍、空豆…　5月の旬は何ですか？（*^_^*）

ＣＳ神戸事務所前のガーデニングコーナーにはもう紫陽花の鉢植えが届きました。Hさん♪いつもありがとうございます。　R